

札幌市立大学機関リポジトリ <https://scu.repo.nii.ac.jp>

看護実践中に看護師が行っているセルフモニタリングの明確化 ～新人レベルと達人レベルに焦点を当てて～

著者	田中 広美
学位名	博士（看護学）
学位授与機関	札幌市立大学
学位授与年度	平成30年度
学位授与番号	20105甲第9号
URL	http://doi.org/10.15025/00000173

平成 30（2018）年度
札幌市立大学大学院看護学研究科 博士論文要旨
看護実践中に看護師が行っているセルフモニタリングの明確化
～新人レベルと達人レベルに焦点を当てて～
札幌市立大学大学院看護学研究科看護学専攻博士後期課程
学籍番号 1475001 氏名 田中広美

I. はじめに

近年、医療を取り巻く環境が目まぐるしく変化しており、看護を取り巻く環境も同様に変化し、その職務も年々複雑化している。看護は、対象となる患者との人間関係が基盤にあり、相互作用の促進により信頼関係が構築される。看護師は、他者との関係において、自身が置かれている状況を捉え、状況に適した看護実践を行っている。これまで看護実践中の看護師を対象に自身が置かれている状況を捉え、看護実践中に選択している行動を明らかにした研究はない。そこで本研究の目的は、看護実践中の自身の行動を選択するプロセスにおいて、看護師が行っているセルフモニタリングを明らかにすることである。

II. 研究方法

本研究は研究 1 から研究 2 と段階的に実施する。その理由は研究 1 の対人関係におけるセルフモニタリングの概念を文献研究で抽出し、その結果を基に研究 2 で看護実践中の看護師のセルフモニタリングの構造を明らかにするためである。

研究 1：対人関係におけるセルフモニタリングの概念の明確化

対人関係におけるセルフモニタリングに関係する日本語文献および英語文献を 30 件抽出し、Rodgers&knafl の手法を用いて概念分析を行い、先行要件、属性、帰結および概念モデルと定義を導き出した。

研究 2：看護実践中の看護師のセルフモニタリングの構造の明確化

新人レベルと達人レベルにある看護師を対象に、参加観察と半構造化面接調査によるデータ収集を行った。分析は、修正版グラウンデッドセオリー・アプローチ法を用いて行い、看護実践中に看護師が行っているセルフモニタリングの構造を明確化した。

III. 結果

研究 1

- 1) 対人関係におけるセルフモニタリングの概念分析により、属性は【観察】【状況の察知】【状況に対する行動の選択とコントロール】、先行要件は【社会的特性】【自己の内的特性】、帰結は【状況を見極めた行動】【自己の内面的変化】で構成された。
- 2) 対人関係におけるセルフモニタリングの定義は「社会的な状況や対人関係の

中で、観察をして、状況を察知する。それを踏まえて状況に対する適切な行動の選択とコントロールを行うこと」を導き出した。

研究 2

- 1) 新人看護師の対象者は 8 名であり、分析の結果 17 概念、6 カテゴリー、1 コアカテゴリーを生成した。新人看護師のセルフモニタリングのプロセスは関係性を探る動きを持ち、対象に良い印象を与え関係性を好転させる行動の統制をしていた。
- 2) 達人看護師の対象者は 9 名であり、分析の結果 16 概念、5 カテゴリー、1 コアカテゴリーを生成した。達人看護師のセルフモニタリングのプロセスは関係性を深める動きを持ち、自身が置かれている状況を捉え良好な関係を築く行動の統制をしていた。
- 3) 看護実践中の看護師のセルフモニタリングの構造は、①状況を捉える契機、②気がかりや思いを受けとめる、③次につなげる行動の統制の 3 側面で構成された。

IV. 考察

本研究において、看護実践中の看護師のセルフモニタリングを明らかにした。新人看護師は、相手に良い印象を与えるため自身が表出する態度がどのように受け止められるかモニタリングし、関係性を好転させるよう行動を選択していた。一方、達人看護師は、自身のこれまでの経験や知識をもとに相手に安心感をもたらすように意識してモニタリングし対応を変化させていた。これにより良好な関係を築く行動の統制をしていた。看護師は看護実践中の看護師のセルフモニタリングを行い、自身が置かれている状況を観察、察知し、行動の選択と統制を行っていた。特に、達人看護師は瞬時に察知し、的確に対応を変化させ、関係構築を深化させていた。繰り返しの経験により実践知として蓄積され、熟達した看護師に成長すると考える。

V. 結論

1. 看護実践中のセルフモニタリングにより、新人看護師は、関係性を探る動きを持ち対象に良い印象を与え関係性を好転させる行動の統制をしていた。一方、達人看護師は、関係性を深める動きを持ちその場に合わせ対応を変化させ良好な関係を築く行動の統制をしていた。
2. 看護実践中の看護師のセルフモニタリングの構造は、状況を捉える契機、気がかりや思いを受けとめる、次につなげる行動の統制の 3 側面から構成された。
3. 看護師は看護実践中にセルフモニタリングを用いて状況を捉え実施することで実践知となる。この実践知の蓄積により熟達した看護師として成長が促進されると考える。